

第11回: ポスト・ケインズ派モデルに基づく 財政政策と金融政策の分析

担当者: 佐々木 啓明*

2010年7月13日

*京都大学経済学研究科. E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp

—概要—

これまでの集大成として、長期のカレツキ・モデルを拡張して、財政政策と金融政策が稼働率、利潤率、経済成長率に与える影響を分析する。

- 財政政策: 政府が政府支出を変化させること
- 金融政策: 中央銀行が利子率を変化させること

これまでの長期カレツキ・モデルを以下の2点において修正する。

1. 企業の負債(借入)と内部留保(企業の貯蓄)を明確に考慮する。
2. 企業の貯蓄と資本家(金利生活者)の貯蓄を明確に区別する。

—負債を考慮した長期カレツキ・モデル—

以下のモデルを用いて分析する.

$$p = (1 + \theta) \frac{w}{T}, \quad (1)$$

$$r = mu, \quad (2)$$

$$g_s = r - (1 - s_c)id, \quad (3)$$

$$g_i = \alpha + \beta(r - id), \quad (4)$$

$$g_s = g_i. \quad (5)$$

(1), (2), (5) 式はこれまでと変わらない.

(3), (4) 式が異なっている. i : 名目利子率, $d = \frac{D}{pK}$: 負債資本比率.

—貯蓄関数(3)式の説明—

企業の借り入れを考慮する場合, 企業に貸し付けを行う金利生活者の存在と企業の内部留保を考慮する必要がある.

労働者: 賃金をすべて消費に回す.

金利生活者: 企業への貸し付けから得られる利子収入と株式の配当を s_c という一定割合で貯蓄する.

企業: 内部留保を s_f という一定割合で貯蓄する.

$$g_s = \underbrace{s_f(r - id)}_{\text{Firm's saving}} + \underbrace{s_c[(1 - s_f)(r - id) + id]}_{\text{Rentier's saving}} \quad (6)$$

$$= r - (1 - s_c)id. \quad (3)$$

簡単化のために内部留保率を $s_f = 1$ としている.

—投資関数(4)式の説明—

ロビンソン・モデル: $g_i = \alpha + \beta r$

カレツキ・モデル: $g_i = \alpha + \beta u$

→ どちらも基本的には同じ投資関数 ($r = \bar{m}u$ だから).

ここでは, 企業の負債が投資に与える影響を考慮した投資関数を用いる.

Retained earnings = Net profits

= Profits – Nominal interest rate × Nominal Debt

= $\Pi - i \times D$. (7)

$$\frac{\Pi - i \times D}{pK} = \frac{\Pi}{pK} - i \times \frac{D}{pK} = r - id. \quad (8)$$

投資は負債を考慮した純利潤率に正に依存すると仮定したのが(4)式.

—均衡の決定—

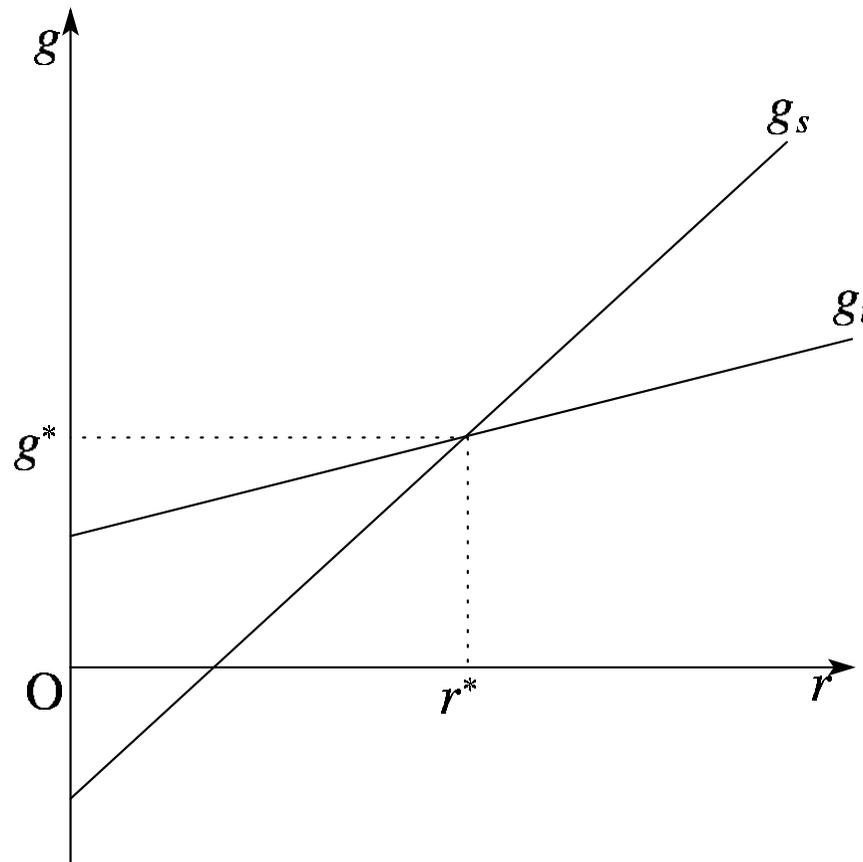


Figure 1: 負債を考慮した長期カレツキ・モデルの均衡

均衡における利潤率, 稼働率, 経済成長率は次のようになる.

$$r^* = \frac{\alpha + (1 - s_c - \beta)i}{1 - \beta}, \quad (9)$$

$$u^* = \frac{r^*}{\bar{m}} = \frac{\alpha + (1 - s_c - \beta)i}{(1 - \beta)\bar{m}}, \quad (10)$$

$$g^* = \frac{\alpha - \beta s_c i}{1 - \beta}. \quad (11)$$

負債資本比率を $d = 1$ にして単純化している.

—財政政策の効果—

このモデルに明示的に政府支出は入っていない(簡単化のため).

そこで, 投資関数の定数項である α の増大を政府支出の増大とみなす.

α が上昇すると, Figure 1 において g_i を表す線が上方にシフトする.

■ 結果

—金融政策の効果—

中央銀行が名目利子率 i を上昇させたとする.

i が上昇すると, Figure 1において, g_s を表す線と g_i を表す線がともに下方にシフトする.

■ 結果